

2022年11月10日（木）

ことう地域チームケア研究会「緩和ケア」

～病院と地域のシームレスな緩和ケアを考える～

症例提示



彦根市立病院
がん相談支援センター
木下 千恵美

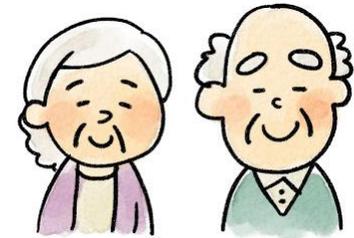
症例 (仮想症例)

■氏名：彦根 滋賀生 (ひこね しかお) 72歳

■家族背景：妻 びわ子 (72歳) 2人暮らし
市内に長男夫婦 (就労中) と孫2人 (小6、小1)
京都に長女夫婦在住

■経過：

2021年11月 胃がん 腹膜播種診断
診断直後から化学療法開始
腹痛あり、診断時から緩和ケア内科併診



2022年10月 三次化学療法施行中 通院治療予約の日
食欲低下、腹痛、腹部膨満感、倦怠感増強
→入院

症例 (仮想症例)

■経過：

2022年10月 軽度の腹水貯留あり、精査の結果、
がん性腹膜炎と診断。



これ以上の抗がん剤治療は、かえって
身体に負担をかけてしまいます。

苦痛症状の緩和を中心に行いましょう。



彦根さんのこれからの過ごし方を
一緒に考えましょう。

症例 (仮想症例)

■ 経過：



「最期は家で過ごしたい」
診断当初から意思表示あり

「私も腰が痛いのよ。
最期のことを考えると心配。
家には帰ってきてほしい。」

住み慣れた家で過ごせるよう、
在宅支援チームと相談しましょう！



看取りを視野に入れて退院することを意思決定

症例 (仮想症例)

■経過：

退院後、1か月程度は自宅で過ごし通院可能。

腹部膨満増強・食事摂取不能・体動困難となりつつありポータブルトイレに移れる程度となった。

妻「元気になるために食事を食べてほしい」

本人「食べたいのに食べられへん」数口食べるだけ



「孫の顔が見たいので家にずっといたい」



「食べる量が少なすぎて栄養が足りてないやん」

「入院して点滴してもらった方が良くないかな」

グループワーク

身体に起こっていること・療養中の彦根さんへの関わりで大切にしたいことについて、話し合しましょう。

